二字漢語動詞の自他性について
—「VNする」型漢語動詞を中心に—

劉　健

キーワード：二字漢語動詞、自他性、VNする

要　旨

現代日本語における二字漢語動詞の研究が始まるのは、山田孝雄博士の『国語の中における漢語研究』まで遡ることができる。和語動詞研究に比べて、漢語動詞に対する研究はやや遅く、しかも漢語動詞の語構成に注目するもの大多数であり、その文法性質に関する研究が注目され始めたのは近年になってからのことである。しかし中国人への日本語教育の観点からすると、中国語には日本語の漢語動詞と同型同義である語が多数存在するので、習得が難しく、誤用も起きやすい。本論文は現代日本語における漢語動詞の自他性を出発点として、漢語動詞の分布とその自他性の特徴を探っていきたい。

1. はじめに

現代日本語の二字漢語動詞（以下、「漢語動詞」と略す）に関する研究の歴史は山田(1940)の『国語の中における漢語の研究』にまで遡ることができる[*1]。この領域の主要な研究として、野村(1977)をはじめとする、漢語動詞の語基[*2]を語構成の視点（造語パターンの分類、整理など）から分析したものが挙げられる。中には仁田(1980)、島村(1985)、小林(2004)、張(2010)など、漢語動詞の文法的性質に注

*1　劉(2012:20)を参照されたい。

*2　「勉強する.生活する」にある「勉強」と「生活」などについては、研究者によって、「語幹.複合語基.前項動詞」など、命名の仕方が異なる。本稿は劉(2012)に沿い、「合成語基」か略して「語基」と呼ぶことにする。

目した研究（漢語動詞が文中で統語的にどう振舞うか）も存在するが、そうした観点からの研究は歴史が浅く、遅れていると言える。

漢語動詞の文法的性質に関する研究の中では、その自他性に関する分析（張(2010)、また項をとるかどうかについての考察（島村(1985)、小林(2004)）が代表的である。いずれも、漢語動詞がほかの名詞（名詞的成分）をとるかどうかに注目している。

漢語動詞の自他性は、しばしば中国人日本語学習者が戸惑っているところであることが、劉(2012,2013)などの研究で明らかになっている。例えば、

(1)　経済を○発展させる／×発展するのはきわめて肝心なことである。
(2)　×太郎がシェークスピアを読書する。[*3]

(1)と(2)はいずれも漢語動詞の自他性の混淆による誤用である。

漢語動詞は和語動詞と違って語形からの手がかりがなく、自他性の判断が難しい為、誤用が起こりやすいのである。自他性を判断するには語形からの手がかりがないことも漢字動詞と和語動詞の異なる点ある。本稿では、「VN する」型漢語動詞全体を対象に、その自他性及び自他性を左右する条件を究明していきたい。「VN する」型漢語動詞を今回の考察対象にする理由には、下記の 2 点が挙げられる。

（ア）今回抽出した「VN する」型漢語動詞は全部で 1,941 語あり、二字漢語動詞全体(10,824 語)の凡そ 18 %を占めている。
（イ）中国語には、「VN する」型漢語動詞の語幹「VN」と同形同義の語が多い。また、中国語の文法では V+N という～にある語が目的語をとるのはふさわしくない。よって、この種の漢語動詞は中国の日本語学習者にとって間違いやすい個所である。

2. 先行研究と問題提起

2.1. 漢語動詞語基の構造に関する研究

野村(1977、1999)では、漢語動詞の語基における意味的結合パターンを修飾（「競

*3 (1)は劉(2013)によるもので、(2)は島村(1985)によるものである。

泳」など）・並列（「増加」など）・補足（「敵視」など）・対立（「左右」など）・重複（「悠々」など）などに分けている。野村氏の研究は漢語動詞の研究をする際には、避けては通れない。漢語動詞語基に対する造語パターンの研究はもちろん、その文法的性質を分析する際にも、まずその構造から入らなければならない。また、野村(1999)の研究の中に、「VN する」型漢語動詞の語基については、次のように分析している。

V＋N（補足関係）：握手　開花　帰宅　就職　脱帽　募金
V＞N（修飾関係）：起因　残業　湿布　乗務　炊事　慢心

ただ、「補足・修飾」という 2 種類だけでは、「VN する」型漢語動詞の文法的性質を考察するにはまだ不十分なところがあると思われる。例えば補足関係にある「握手・脱帽・募金」は「動詞＋目的語」、「開花」は「動詞＋動作主」、「帰宅」は「動詞＋目的地」のように再分類できる。これについては後で詳述するが、要するに、「VN する」型漢語動詞の語基に存在する多様な文法的意味関係は、まさにその自他性を左右する要因であり、中国人日本語学習者を困らせるところでもあると考えられる。

2.2. 漢語動詞の自他性に関する研究

上で述べたように、近年、漢語動詞の文法的性質に関する研究が増加している。島村(1985)がその代表的な存在である。島村(1985)では、漢語動詞が更に前に「を」格の名詞や「に」格の名詞などを取れるかどうかについて論じている。楊(2007)では「解決する」を中心に、その自他性を考察している。小林(2004)では二字漢語と四字漢語動詞を対象に、その構造を分析するもので、「VN する」型漢語動詞が、名詞的要素「N」と関係付けられた項（以下「項」と略す）を取れるかどうかについて、次のように述べている。[*4]

①項を取れないタイプ：飲酒する、挙式する、処刑する、……
②項を取れるタイプ：投票する、登山する、入院する、……
③項を取れなければならないタイプ：開封する、観戦する、除名する、……

*4 小林(2004：94)を参照されたい。

ここで注意すべきことは、小林(2004)で言っている「項」は、「を」格名詞だけでなく、「に」格名詞のことをも含まれている(「大学付属病院に入院する」の場合)ことである。よって、「を」格名詞を取れるかどうかという「自他性」の考察とはやや異なる問題なのである。本稿は、「VN する」する型漢語動詞の自他性についての研究なので、小林(2004)にはこれ以上立ち入らず、参考程度にとどめておきたい。

張(2010)とその後の一連の研究は、まさにこの「VN する」型漢語動詞の自他性に関するものであり、本稿に大変示唆を与えてくれる先行研究になる。張(2010)には、「VN する」の中にある動詞的要素「V」が自動詞用法なのか他動詞用法なのかという点を分析し、この動詞的性質を「VN する」全体の自他性にどう関わるかを考察したものである。いままでの研究では、語幹の名詞的要素との関わりから論じたものが殆どで、動詞的要素との関わりという視点からは余り言及されていない。よって、張(2010)の研究は漢語動詞の自他性にとって、重要な研究だと考えられる。しかし、張(2010)では、自他の認定に関してまだ検討する余地がある。例えば、この論文で他動詞だと認定している語には、「撤兵する」のような自動詞の用法しかない語が混ざっている。また、「VN する」全体の自他性と動詞的要素「V」自他性が関わっていると結論付けられているが、その原因は明確にされていない。

2.3. 本稿のねらい

本稿では、次のような点を明らかにするのがねらいである。

(ア) 現代日本語の「VN する」型漢語動詞を網羅的に収集すること。
(イ) 「VN する」型漢語動詞の語幹にあたる動詞的要素「V」と名詞的要素「N」の意味関係を分析すること。
(ウ) 「VN する」型漢語動詞の自他性を分類すること。
(エ) 自他性を左右する要因を分析すること。

3. 「ＶＮする」型漢語動詞の特徴

3.1. 「ＶＮする」型漢語動詞の分布

劉(2012)などの研究によって、現代日本語サ変動詞は全部で 13,803 語あることが明らかになった。そのうち、二字漢語動詞は 10,824 語あり、サ変動詞全体の凡

そ 78 %占めている。この 10,824 語のうち、「VN する」型漢語動詞は 1,941 語ああることが今回の調査で分かった。この中で、語幹が「動作一対象」関係にある動詞はいちばん多く 1,275 語あり、全体の半分以上を占めている。この 1,275 語の自他性、特に、「動作 - 対象」のような VN する型漢語動詞の語幹には名詞項が既に内包されてあるため、中国人学習者にとって間違いやすい部分である。本稿はまず語幹が「動作 - 対象」関係にある「VN する」型漢語動詞から入っていきたい。

3. 2. 「動作 - 対象」関係にある「ＶＮする」型漢語動詞の自他性の不明確性

上で述べたように、「動作 - 対象」関係にある「VN する」型漢語動詞は全部で 1,275 語あり、「VN する」型漢語動詞全体の 65.8 %を占めている。この類の漢語にはいくつかの特徴が挙げられる。

『明鏡国語辞典』（第二版、大修館書店、2010）、『大辞林』（第三版、三省堂、2006）、『広辞苑』（第六版、岩波書店、2008）、『新明解国語辞典』（第七版、三省堂、2011）という 4つの辞書に記載されている「動作 - 対象」関係に「VN する」型漢語動詞の品詞性として、自動詞か他動詞かを見てみよう。五十音順で前 20 語の品詞について調べたところ、次の表 1 のようにになる。

表１４つの辞書による「動作 - 対象」関係にある「VN する」型漢語動詞の自他性[*5]

対象語（N）	『明鏡』[*6]	『大辞林』	『広辞苑』	『新明解』
握手	自	動	有・×	動
育児	無	動	有・×	有・×
育種	他	動	有・×	有・×
育苗	無	動	有・×	有・×
移項	他	動	有・×	有・×
縊首	無	動	有・×	無
移籍	自他	動	有・×	動
移牒	他	動	有・×	動
逸機	自	動	有・×	動
溢血	自	動	有・×	動
溢水	自	動	有・×	動
溢乳	無	動	有・×	無
移封	無	動	有・×	無
移民	自	動	有・×	動
遺命	名	動	有・×	有・×
引火	自	動	有・×	動
印字	他	動	有・×	動
飲酒	自	動	有・×	動
引責	自	動	有・×	動
引例	他	動	有・×	動

表 1 で示しているように、4 つの辞書のうち、『明鏡国語辞典』だけが自動詞か他動詞かを明確に表示している。一方、『大辞林』と『新明解国語辞典』のほうは「スル」、つまり「動詞」だけを明示し、それ以上の自他性については明記してい

*5 表 1 にある「自」「他」「動」「有.×」「無」の指す意味はそれぞれ、「自動詞」「他動詞」「動詞」「収録されながら、動詞だと明示されない」「当該単語未収録」である。各辞書の名前は略称で示す。

*6 各辞書の名前は略称で示す。

ない。更に、広辞苑はただ当該単語を収録しているのみであり、動詞かどうかについての標記はない。ただ、その後の例文から見ると、動詞性がある単語だと何とか分かる。また、ある辞書では（漢語）動詞だと認定されている単語が、ほかの辞書では収録されなかったり動詞だと明確に標記されなかったりして、必ずしも各辞書の記載が一致するするわけではない。自他性の認定に関しては、各辞書では慎重な態度をとっていることからも、漢語動詞の自他に関する不明確性が伺える。『明鏡国語辞典』以外の3つの辞書では、和語動詞の自他については非常に明確に示している。例えば「開ける.開く」という動詞で調べてみると、表2の結果が出る。

表2　「開ける.開く」の自他に関する各辞書の記載

	開ける	開く
『明鏡』	他一	自五（※他）
『大辞林』	他一	自五（他下二）
『広辞苑』	他一	自五（他四）
『新明解』	他一	自五

表2と表1を比べてみると、和語動詞の自他に関しては、各辞書で揺れがなく記載していることがわかる。このことは、漢語動詞の自他性について未解明の個所が数多く存在していることを示唆している。これも、日本語学習者にとっては漢語動詞が習得しづらい理由になると考えられる。

4.「動作 - 対象」関係にある「ＶＮする」型漢語動詞の自他性とその原因

この節では、(「動作 - 対象」関係にある)「VN する」型漢語動詞の自他性を明確に記載している『明鏡国語辞典』に沿って、その自他性の概況と自他性を左右する要因を探っていきたい。

4.1.「動作 - 対象」関係にある「ＶＮする」型漢語動詞の自他性

『明鏡国語辞典』の記載によれば、「動作 - 対象」関係にある「VN する」型漢語動詞の自他性は次のように分布している。

表 3 『明鏡国語辞典』による自他性の分布状況

品詞性	自動詞	他動詞	自他両用	名詞	収録無	総計
語数	435	205	274	39	322	1,275
比率	34.1%	16.1%	21.5 %	3.1 %	25.3%	100 %

この 914 語の「動作 - 対象」関係にある「VN する」型漢語動詞のうち、自動詞と認定される語がいちばん多く、凡そ半分を占めている。次に多いのは自他両用の動詞で、他動詞と認定される語は 205 語ある。今度は自動詞、他動詞、自他両用動詞を分けてそれぞれの特徴を見てみる。

4. 2. 「動作 - 対象」関係にある「ＶＮする」型漢語動詞の自他性の要因

上で述べたように、「動作 - 対象」関係にある「VN する」型漢語動詞の内、動作 - 対象関係にあり、かつ他動詞と認定される語は全部で 205 語ある。数はそんなに多くはないが、非常に興味深い現象である。つまり、これらの動詞の語幹は小林(2004)でも指摘されている通り、これらの動詞は語幹に対象という内的項を有するのに加えて、更に対象を表す項をとることが出来る点で非常に興味深い。また、自動詞と認定される語は全部で 435 語あり、他動詞の漢語の倍になる。自動漢語動詞でも他動漢語動詞でも、和語動詞のような形態上の相違は認められないが、両者を詳細に比較すると、次のような相違点があると考えられる。

4. 2. 1. 意味的まとまり性

結論から言えば、自動漢語動詞と比べて、他動漢語動詞のほうが意味的まとまり性に欠けていることがわかる。

(3) 何はともあれ叔父のために、伏してお願いします、提督、どうかその急送公文書を開封してください。 *7

(3') *……提督、どうか開封してください。

(4) 事実を知って、犬養木堂が激怒した。中村彌六を除名し、政界追放という

*7 本稿では、特に断らない限り、例文は全部ＫＯＴＯＮＯＨＡ「現代日本語書き言葉均衡コーパス」少納言から取り出したものである。

最も厳しい処分をなした。

(4') *事実を知って、犬養木堂が激怒した。除名し、政界追放という最も厳しい処分をなした。

(5) 1 巻読めばわかるけど、最初に富士山が噴火したか核爆発したかで、こんな風になってしまいました。

(6) コムスンのヘルパーたちは、民間の在宅介護支援に夢をいだいて転職してきた人も多い。その人たちの落胆は大きい。

(7) そういうことですね。先生なんかしているよりも、捜査刑事に転職したらどうですか。

「開封する.除名する」は他動詞で、(3')と(4')のようにのように目的語をとったら、不自然な文になってしまう。先に述べたように、動作 - 対象関係にある VN する型漢語動詞は、その内部に目的語相当の名詞的要素が既に存在している。それにもかかわらず、更に外側に目的語を必要とするという事は、動詞内部での動作 - 対象関係が意味的に不完全である事を意味している。この意味的な完全さ・不完全さを本稿では「意味的まとまり性」と呼ぶ。例えば、「噴火する・転職する」といった自動詞は動作主さえあれば十分であり、目的語を必要としないことから、意味的にまとまっているといえる。よって、他動詞は自動詞と比べ意味的まとまり性に欠けているという事が出来る。動詞の目的語と解釈できると思われる名詞的要素が「動作 - 対象」関係にある「VN する」型漢語動詞内部に「編入され」ているにも関わらず、その外側にも目的語が重複して現れる場合があると Jacobsen(1982)でも言及している。具体的には次のように述べている。

（ア） ある特定の目的語が、その類の他の成員から区別されなければならないか、あるいは、特に明示的に（specifically）言及されなければないないとき。

（イ） ある目的語を明示し（specify）確認する（identify）ために、〔漢語 CV[*8] の内部に〕編入された目的語の中にすでに盛り込まれてる意味情報以上の情報を導入する必要があるとき。

島村(1985)でも、この点について Jacobsen(1982)の観点を引用し、同意してい

*8 漢語動詞のことを「漢語 CV」と呼ぶ研究者がいる。

る。(ア)(イ)の指摘は、動作 - 対象関係にある VN する型漢語他動詞が全体的に意味的まとまり性に欠けていることを支持する証拠である。一方、島村(1985)でも Jacobsen(1982)でも、漢語自動詞が目的語を許さない原因については言及されていない。

4.2.2. 意味的排他性

(8) *ここに実印を捺印してください。[*9]
(9) *三島由紀夫は太鼓腹を切腹して死んだ。
(10) *汚れた顔を洗顔する。
(11) *この帽子を脱帽する。
(12) *シェークスピアの悲劇を読書する。

(8)～(12)の例文はいずれも自動漢語動詞の文で、不自然であり、次のように言い換えると許容度が高くなると想定できる。

(8') ここに捺印してください。／ここに実印を押捺してください。
(9') 三島由紀夫は切腹して死んだ。／三島由紀夫は太鼓腹を切って死んだ。
(10') 洗顔する。／汚れた顔を洗う。
(11') 脱帽する。／帽子を脱ぐ。
(12') 読書する。／シェークスピアの悲劇を読んでいる。

「捺印する.切腹する.洗顔する.脱帽する.読書する」などの自動詞は、更に目的語をとることができない。Jacobsen(1982)で言っているように、他動漢語動詞の前に来る目的語は「盛り込まれてる意味情報以上の情報を導入する」役目を有して、「捺印する」のような語には、この役目が必要でなくなると考えられる。というのは、「捺印する」という語自体に、「実印を押捺する」の意味が既に含意されており、「実印」は意味的に重複してしまうので、更に来る「実印」はただ意味的に重複していて「盛り込まれてる意味情報以上の情報を導入する」役目は果たせなくなるからである。(9)の「切腹する」は「自分の腹を切る」のが前提であるため、

*9 (8)～(12)の例文は島村(1985)から引用したものである。

三島由紀夫の場合は太鼓腹でも「自分の腹」という意味には変わりはない。(10)も(11)も同様である。(12)の「読書する」という語は具体的にどんな本を読むかを語るのではなく、ただ「本／書籍を読む」意味を表している。自動漢語動詞は動詞内部が意味的にまとまっている為、目的語が来ても重複表現となり、かえって不自然になるわけである。これは「動作 - 対象」関係にある「VN する」型他動漢語と自動漢語動詞のもっとも根本的な相違点であると考えてもよかろう。

5. おわりに

本稿はまず、「VN する」型漢語動詞を網羅的に収集し、その分布状況を調べてみてきた。調査の結果、1,937 語の「VN する」型漢語動詞のうち、「動作 - 対象」関係にあるものがいちばん多く、1,275 語もあり、全体の 70 %近く占めていることがわかった。これらの漢語動詞の大多数は中国語に同形同義（類義）語が存在するため、中国人学習者にとって習得しがたいグループにもなる。従って、本稿は「動作 - 対象」関係にある「VN する」型漢語動詞に絞り、その自他性の状況と自他性を左右する要因を探ってみた。考察の結果、(「動作 - 対象」関係にある「VN する」型漢語）他動詞は意味的にまとまり性が欠けていることと、自動詞は意味的に意味的にまとまっていることが明らかになった。これは、他動詞と自動詞の意味上の大きな違いである。

「動作－主語」、「動作－結果」などの意味関係にある「VN する」型漢語動詞の自他性の状況とそれを左右する要因などは、今回の調査結果と調査方法を踏まえて今後の課題としたい。

参考文献

小林英樹(2004)『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房
島村礼子(1985)「複合語と派生語―漢語系複合動詞を中心に―」『津田塾大学紀要』17
張善実(2010)「V-N 型の漢語動詞の語構成と自他」『言葉と文化』11
仁田益雄(1980)『語彙論的統語論』明治書院
野村雅昭(1977)「語構成」，宮地裕（編）『講座日本語と日本語教育 1 日本学要説』明治書院 pp.49-66
野村雅昭(1999)「「サ変動詞の構造」，森田良行教授古稀記念論文集刊行会（編）『日本語研究と日本語教育』明治書院 1-23

楊昺郎(2007)「自動詞.他動詞用法に意味的制限を持つ自他両用動詞について―二字漢語動詞を中心に―」『筑波日本語研究』第 12 号 筑波大学人文社会科学研究科日本語学研究室

劉健(2012)『現代日本語二字漢語のアスペクト』北京大学出版社

Jacobsen,W(1982)*Transitivity in the Japanese Verbal System.* Ph.D. dissertation, University of Chicago. Reproduced by the Indiana University Linguistics Club.

[付記]

本稿は、 2014 年 8 月 21 日中国人民大学で行われた「第 6 回漢日対照言語学シンポジウム」における口頭発表の一部内容を加筆.修正したものである。ご指導くださった矢澤真人先生をはじめとする諸先生方に厚く御礼申し上げます。

リュウ　ケン／首都師範大学

(2014 年 10 月 31 日受理)